

「歯周病と全身の関連」

吉成伸夫

現在、日本は超高齢社会を迎え、自分の歯で物を噛み、楽しく会話することの重要性が以前にも増して認識されています。人生の幼少期から始まり、青年期、成人期、老齢期と続くライフサイクルの中で、歯周病は成人期、老齢期において特に重要です。その理由は、成人期以降では生活習慣病による死亡率が増加しますが、この生活習慣病と歯周病との関わりが示唆されていること、高齢者における歯周病罹患率、重症度が増加していること、さらに、この年齢層ではライフスタイルが多様化しており、個々に応じた対応が必要であるからではないかと思います。

歯周病と全身疾患の関係には、「全身疾患が歯周病に関与する場合」と、「歯周病が全身疾患に関与する場合」という双方向性の関係があり、この学問領域はペリオドンタルメディシンと呼ばれています。すなわち、歯周病は口腔感染症のみならず、全身にとって軽微な慢性炎症、そして他の臓器にも影響を与える病気として認識されているのです。

そこで、今回は「歯周病と全身の関連」というタイトルで、両者の関係について現時点で解明されている関連性、因果関係をお話しさせていただきたいと思います。

〈略歴〉

松本歯科大学歯科保存学第一講座 吉成 伸夫



- ・1986年 愛知学院大学歯学部卒業
- ・1990年 愛知学院大学大学院歯学研究科修了
- ・1990年 愛知学院大学歯学部助手
(歯科保存学第三講座、歯周病科)
- ・1995年 愛知学院大学歯学部講師
(歯科保存学第三講座、歯周病科)
- ・2001-2002年 University of North Carolina at Chapel Hill 留学
- ・2006年 松本歯科大学教授
(歯科保存学第一講座、歯周病科、お口の健康科)
- ・2008年 松本歯科大学副病院長
- ・2010年 松本歯科大学副学長
現在に至る。

〈役職〉

- ・日本歯周病学会常任理事
- ・日本歯科保存学会理事
- ・日本レーザー歯学会理事
- ・International Association for Dental Research 会員
- ・American Academy of Periodontology 会員
- ・International Academy of Periodontology 会員

- ・日本歯周病学会専門医・指導医
- ・日本歯科保存学会認定医・指導医
- ・日本レーザー歯学会認定医
- ・日本老年歯科医学会指導医